

母の仕事

名古屋市立一柳中学校

3年 西垣 伊智華

初夏の涼しい夜に、私は留守番をしていた家から飛び出した。約5年前、私は当時9歳。父も居らず、一人が怖くて寂しくて、母の元へ行きたかったのだ。

家の近くの幼稚園で母は働いていた。母はいつも忙しそうにしていたが、特にその頃は多忙だった。夜遅くまで幼稚園の事務所にこもり仕事をして、朝は早く起きリビングでまた仕事をする。母の目の下の隈は日に日に黒くなっていった。母の仕事に打ち込む気持ちは理解しがたいもので、正直馬鹿馬鹿しく思うこともあった。しかし、それ以上に私は母が心配だった。

母が必死になっていた仕事はなんだったのだろうか。5年前と幼稚園関係の情報から調べてみると、「幼児教育・保育の無償化」という政策にいきついた。

「幼児教育・保育の無償化」は幼稚園、保育園、認定こども園等の保育料を税金によって無料にするという制度だ。総合的な少子化対策と子育てをする家庭の経済的負担の軽減を図るため、という目的で実施された。私の幼稚園3年間にかかった保育料は約90万円ほどだが、これが税金によって賄われていると思うと、中学生の私でも税金のありがたみが判然と感じられる。

この政策は人格形成に関わる幼児期の教育の重要性にも基づいて作られている。環境的要因と遺伝的な要因が互いに作用して、人格形成に影響を与える。更に後の人生も幼児期の教育により、豊かになっていくことがデータとなって証明されていた。

「今」だけでなく「未来」も見据えた政策だったのだ。子供達がどのような大人になるかによって日本の未来も決まる。日本の発展にこの政策は欠かせないだろう。私は感嘆した。更に、この政策を可能にしている税金の大切さに気付かされた。

少子化に歯止めをかけることや、子供・日本の未来を支えることなど、沢山の目的を含んでいる「幼児教育・保育の無償化」。そんな重要である政策の一部を母は担っていた。

色々なことを学んだ今、母の背中がとても大きく見える。家を飛び出し母の元へ行った時、突然現れた娘に驚く母が、今でも頭に浮かぶ。笑いながら、「どうしたの？」と抱きしめてくれた母の温もりは寂しくて沈む私の気持ちを暖めてくれた。それがとても嬉しかったのを覚えている。5年も前の出来事が“税が未来へ繋がること”を教えてくれた。私も働いて、納税者となる日が来る。そうなったとき、税金を払うことに誇りを持てる大人になりたい。